日本顎関節学会 第 40 回学術講演会 -顎関節症 インタラクティブコース―

仲井太心 Taishin Nakai 東京都・歯科仲井診療所

2014年,世界の顎関節症に関する 主要な学会で大きなトピックがあっ た. 顎関節症の病態分類・診断に関す る国際標準として, それぞれの学会 で、信頼性と基準関連妥当性が確認さ れた「DC/TMD (Diagnostic Criteria for TMD)」が採用されたのである. 日本顎関節学会ではいち早くこの流れ に対応し、2013年に「顎関節症の概 念」「顎関節症の病態分類」を, 2014 年に「顎関節症と鑑別を要する疾患あ るいは障害」および「顎関節・咀嚼筋 の疾患あるいは障害」の新たな基準を 策定した.

こうした動きのなかで2016年10 月 16 日(日), 日本大学(東京都千代 田区)にて日本顎関節学会による,顎関 節症の国際標準としての診察・検査, 診断、治療を行うことのできる歯科医 師を養成することを目的とした日本顎 関節学会学術講演会「顎関節症 イン タラクティブコース」が開催された.

今回の大きな特徴は,受講者参加型 のセミナーとして,画像診断,触診, さらには顎関節症の症例についてのハ ンズオンが含まれていることである.

当日は, 最初に日本顎関節学会理事 長である古谷野 潔先生(九大)から 「顎関節症の概念および病態分類、顎 関節症の診断基準」と題して顎関節症 診療の根幹となる考え方についての解 説があり、その後、各論に入っていっ た. まず, 小林 馨先生(鶴見大) か ら顎関節の画像診断の講義が行われ た. 顎関節の解剖, 各画像診断法にお ける読影ポイント, 各画像診断の特徴 などの説明があり、 顎関節の状態をよ り理解するために MRI 画像について のトレース実習が行われた.

午後からは, 小見山 道先生(日大 松戸)から DC/TMD の「顎関節症の 診察・検査」についての講義と触診の ハンズオンが行われた. DC/TMD は 問診票,検査用紙が決められており, これに沿って診察・検査ののち、診断 樹により診断を行うが、診察・検査を 行う際のセリフ, 手技が厳密に定めら れている. 今回は, ハンズオンとして, 圧力計を用い触診圧のキャリブレー ションを行った後、受講者同士で部位 と触診圧について確認しながら実習を 行った. 日本では、触診について学ぶ 機会はほとんどなく、この体験は貴重

ついで築山能大先生(九大)により DC/TMD の質問票と検査用紙を用い、

実際の患者データより, 病態診断, 治 療方針の策定を考えるという症例ベー スのハンズオンが行われた.

講演の最後は、和嶋浩一先生(慶応 大) から「顎関節症の各病態に対する (標準的)治療」として、診察・検査 より得られた情報から,原因と病態と の関係を深く考え,適切な病態教育と, セルフケアにより原因を積極的に改善 させること, スプリントと NSAIDs な どにより関節痛を除去したのち筋痛に 対して積極的に運動療法を行っていく という具体的な方法について解説いた だいた.

今回の講演会を通して、 顎関節症に おける最新の概念から診察・検査、診 断、治療までを一日で学習できる充実 した内容であった. 世界基準の顎関節 症への対応を学ぶため、ぜひこのイン タラクティブコースを受講することを お勧めしたい.

